

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	発達支援室つくしん房		
○保護者評価実施期間	令和8年 7月 6日 ～ 令和8年 7月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数) 38
○従業者評価実施期間	令和8年 7月 1日 ～ 令和8年 7月 3日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 8月 20日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	特性や発達段階に合わせて、経験を積み重ね、一人ひとりのできたを大切に支援を行っていること。	日々の活動や生活の中で、個々の苦しさや困りごとを知り、特性を理解した上でプログラムに取り入れています。いくつかのグループに分けたり個別対応などを通して、苦手な部分を練習し「できた」につなげています。	スタッフ間での情報共有を密にするとともに、幼稚園教諭、保育士、言語聴覚士等のスタッフの専門的な知識を活かし、より支援の幅や質の向上を図っていきます。
2	医療法人tsukushiが母体であったり、同じ法人内に相談支援があるため、相談・連携しやすい環境であること。	月に1度スタッフミーティングや法人内のこころクリニックと合同で勉強会を実施し、医師、看護師、認定心理士、相談支援員などと情報を共有し、特性に合わせた関わり方の助言をいただいています。	スタッフミーティングを通して、得た情報や知識をスタッフ間で共有し、共通の認識をもつことで、子ども一人ひとりと向き合い、理解を深めながら関わっていきます。
3	保護者様と話しやすい環境づくりを行っていること。	保護者様とは送迎時にお話をさせていただき、共通理解のもと支援が行えるように努めています。連絡ファイルや場合によっては面談や電話にてお子様の状況や課題についてお伝えしています。	保護者様からもっと助言が欲しいとのご意見もあったため、要望があれば面談も可能であることをより多くの保護者様に周知していただけるよう積極的におしらせしていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	きょうだい向けのイベントやきょうだい同士の交流の機会を設ける場の提供ができていないこと。	きょうだい支援については、必要であるという声が保護者様から聞かれません。また対象となる児が低年齢ということもあり、兄弟どうしの交流の機会をどのように設けていくべきか課題となっています。	保護者様にとってきょうだい支援がどの程度必要か確認しながら、必要な場合は低年齢でも参加できるようなかたちを、スタッフ間で話し合い創意工夫をしていきます。
2	保育園や幼稚園などの交流を行っていないこと。	利用している子どもたちは、保育園や幼稚園に通われており、保護者様からの要望もないため今のところ交流は考えていません。	現在交流は行ってませんが、要望があれば検討していきます。 地域のイベントに参加できる機会がある時は、積極的に参加できるよう情報収集を図っていきます。
3	事業所が交通量の多い道路に面しているため、来所・退所時や外出時の安全確保に十分な配慮が必要なこと。	立地環境に加えて、子ども一人ひとりの特性を理解し、より安心・安全に利用できるかが課題です。	子ども一人ひとりの特性や行動面をスタッフ間で共有し、外出時の見守りや声掛けを徹底します。保護者様にも、危険性について周知していただき、事業所と家庭が連携して、安心・安全に利用できる環境を整えていきます。